

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 芸術緑丘 高等学校	
学校教育目標	豊かな人間性と高い専門性を育み、芸術文化活動への参画を通して、芸術文化の振興に寄与し、社会を豊かにできる人材を育てる。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・芸術系高校の専門性の中で、公立学校としての教育目標を全教職員で共有し、組織の方向性を明確にしている。 ・校長および管理職は教職員を牽引するリーダーシップを発揮しており、教職員間の連携は円滑である。 ・組織内の風通しも良好であることから、学校全体として安定した運営が行われていると評価できる。	・今後も、芸術専門高校として、教育活動全体をととした芸術教育の方向性を明確にしていく。 ・学校評価の重点項目を確実に目標管理に取り入れ、組織内の共通意識を図ることで、組織内団結力を高める。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C Aサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・前年度に比べPDCAを意識した改善が進展しており、特に改善データの具体化が図られている点は評価できる。 ・高等学校教育の基本目標に照らし、教育活動全体を改善しようとする真摯な姿勢が明確に示されている。 ・教員の専門性を尊重しつつ、重点目標以外の周辺課題にも視野を広げた組織的な取組が認められる。	・学期ごとの授業アンケートや保護者アンケート、外部データを具体的に分析しながら、改善策を練ると同時に、取組指標や達成指標の見直しを図っていく。 ・教員の専門性をもとに、引き続き芸術に係る地域課題にも対応取組を進める。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学校開放等やSNSを活用した広報により、保護者や地域が学校の教育活動を理解しやすい環境を整備している。 ・中学生等にも学校の魅力発信することにより今後の進路選択やキャリアデザインに寄与している。	・HPやInstagramの投稿数を更に上げるとともに、生徒の「学習成果」だけでなく、その「過程」を含めた芸術緑丘高校の魅力を発信していく。 ・音楽科の全国募集がはじまったため、他県へ向けたデータの作成や、訪問を実施する。 ・地域や中学生、在校生保護者に向けた学校開放週間を設定することで、中学生や保護者の進路選択に対する意識を醸成する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・生徒は専門科目には高い意欲を示す一方、普通科目の授業に対する学習意欲が低い傾向が認められる。 ・専門科目は教員が師匠的・審査員的役割を担うため、生徒の心理的負担が生じやすい構造もある。 ・普通教科担当教員は生徒をフラットに捉え専門領域以外での良さや将来像を引き出す役割を担っていると考える。 ・生徒一人一人の多面的な良さ、可能性に気づくための関わりを授業の中で構築されたい。 ・普通科教員には、授業力を高め、自らの教科が専門性の深化に不可欠であることを伝える努力が望まれる。	・中間調査を廃止し、各科目で単元ごとの確認テストを実施する。この短期間のサイクル学習により、「できる」「わかる」実感を生徒に持たせ、学習習慣を身につかせる。 ・一人一台端末のスタディサブリの活用(毎週末課題の実施)と、メタモジによる協議を通して、「個別最適な学び」と「対話的な学び」を両立させる。 ・単元ごとに6つの資質・能力(礼節・協働力・発想力・行動力・鑑賞力・発信力)を提示することで、普通科目が芸術に果たす有機的な役割を認知させていく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・RAMPSを効果的に活用し、SSWやSCヘフンストップでつなげる体制を整えている点は評価できる。 ・芸術系以外の進路を希望する生徒等の「迷い」や「苦悩」を早期に察知し、対応することを期待したい。 ・専門性や学校規模等による密な人間関係の閉塞感に対し、より高度で組織的な対応ができるよう期待する。	・学期はじめのRAMPS実施と、それに伴う全職員による全生徒に対する個別面談を実施する。 ・教育相談を中心に、適宜、ケース会議や事例検討会を行い、早めの対応を行う。 ・引き続きSCやSSWを積極的に活用し、問題解決に向けて適切な対応を行っていくとともに、教育相談部、全職員での共有を図る。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・校舎は築年数を経ているものの、改善すべき箇所を把握し、段階的に整備が進められている。 ・練習室のドア修繕など、安全性や利便性に直結する設備については、優先的な対応が必要である。 ・校則については、生徒の健康や技能向上を妨げないよう、社会状況を鑑みた適切な見直し求められる。	・トイレ改修、体育館空調整備とともに、練習室のドア修繕など、安全性や利便性に直結する設備については、優先的に予算請求を行う。 ・南海トラフ等の発生を念頭におき、備蓄品の増強を実施する。 ・時代に応じた校則の在り方について、生徒会を中心に継続的に協議を行う。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・教員の多忙化は課題だが、管理職の理解のもと働き方改革に向けた取組が進んでいる点は評価できる。 ・DX推進による業務効率化を図り、教職員の負担軽減と教育の質向上を両立させることを期待する。	・今年度に引き続き、ボトムアップによる業務改善を行うため、学期ごとに職員から改善案を募り、業務改善を実施する。 ・QRコードを利用した保護者総会資料配布や、FORMSによるアンケート実施など、ICT活用による業務改善を推進する。 ・担任業務と分掌業務の担当を分け、全職員の仕事を標準化する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○授業改善への取組 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・校長のリーダーシップのもと授業力改善のための思い切った、仕組み作りを実現し提案している。 ・普通科目の授業に対する生徒の意欲は、教員の意欲と連動しており、一層の授業改善と工夫が求められる。 ・大分県の芸術をリードする存在として、生徒の自己実現への橋渡しを視野に入れたさらなる改善を期待する。	・年度初めに指導主事を招聘して、評価に関する研修を実施するとともに、互見授業週間、学校開放週間を設定する。 ・校内授業研究会を実施する際、指導主事の招聘とともに、県内への周知を行う。 ・大分県の芸術をリードする人材育成のため、外部コンクールや展覧会などの参加を奨励し、実践的な芸術貢献を推進する。
総合評価	<p>・「学校をより良くしたい」という前向きな姿勢が教職員全体に共有されており、専門性の高い学校としての強みが確実に育っている。</p> <p>・一方で、芸術系高校特有の生徒の心理的負担、施設の老朽化、校則の時代適合性など、引き続き取り組むべき課題も存在している。</p> <p>・教育環境の整備や通学環境の改善など、「教育への投資」は長期的に大きな効果をもたらすものであり、予算的制約はあるものの、計画的かつ積極的な対応が望まれる。</p> <p>・本校が有する専門性と教育力をさらに発展させ、生徒一人ひとりが「自分の価値」や「居場所」を見いだせる学校づくりが進むことを期待する。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・芸術の表現者として必要な資質である実技力・学力・体力の向上を図る。</p> <p>・普通科目の学習意欲向上と、進路自己実現(芸術系以外も含む)のために、単元ごとに、身に付けるべき6つの資質・能力(礼節・協働力・発想力・行動力・鑑賞力・発信力)を提示する。</p> <p>・生徒の活動や学習におけるプロセスを重視することで、自己受容を育成する。</p> <p>・ICTを活用し、保護者総会などの資料をQR配信に変えることで、教職員の負担軽減と教育の質向上を両立する。</p>			